



# 誤嚥性肺炎について

いわゆる医療通信 脳卒中により引き起こされる疾患

食べ物や飲み物を飲み込む動作を「嚥下」といい、この動作が正しく行われなことを「嚥下障害」といいます。また、食べ物や飲み物、胃液などが、本来入るべき食道ではなく、気管や気管支に入ってしまうことを「誤嚥」といいます。

誤嚥性肺炎とは、口の中の細菌が唾液や胃液と共に肺に流れ込んで生じる肺炎のことです。我が国の高齢者が罹患する肺炎の大部分を、この誤嚥性肺炎が占めています。

入院を要する肺炎患者の

中で、誤嚥性肺炎の占める割合は70歳代で70%、80歳代で80%、90歳代では95%近くになっていきますので、高齢になればなるほど誤嚥性肺炎が増加すると考えてよいと思います。

誤嚥を来たしやすい病態には、急性期と慢性期の脳血管障害、認知症、寝たきり状態（原因疾患を問わず）、口腔内悪性腫瘍、胃食道逆流、胃切除（全摘・亜全摘）、鎮静薬や睡眠薬の服用によるものなどが挙げられます。

こうした病態を背景とし

て、口の中の唾液や食物を誤嚥したり、胃の中のものが入り込んで逆流したものを誤嚥します。これらはまれに同時に起こることもあります。

症状として肺炎に特徴的な発熱や咳、痰などの通常の肺炎の症状を訴えないことが多く、何となく元気がない、だるさや食欲が低下するなど、肺炎と一見思えない症状がみられることが多いようです。

さらに食事中の

むせ、常にとどろく音や音が鳴っている、さらに痰が汚いなどの症状がみられ、気がつかないうちに重症の肺炎になっていることも特徴的です。（次回は誤嚥性肺炎の予防方法について説明していきます）

